

4-(1)-⑰ 産学官連携

本学では、地域社会や産業界との全学的な連携活動を通じて、多様な教育機会の提供を図るとともに、社会に対して際立った影響を与え続ける研究・社会貢献活動を展開している。

■共創デザイン室

共創デザイン室を窓口とした産学連携事業は、コロナ禍による行動制限のため、契約件数・金額とも令和2（2020）年度に減少したものの、令和3（2021）年度には社会活動の再開に伴い契約件数・金額ともコロナ禍以前の水準に回復した。総契約件数は62件（前年度比129%）、契約額は46,715千円（前年度比164%）に達した。なお、契約件数は共創デザイン室を開設した平成23（2011）年度以降、一昨年度（令和元（2019）年度）に次ぐ2番目の高水準となった。

■文化財保存修復研究センター

文化財保存修復研究センターでは地域の文化財の保存修復に関する受託研究を推進しており、総契約件数は33件（前年度比127%）、今年度受託額は30,055千円（前年度比96%）と順調に推移した。20年計画で進行中の鶴岡市善寶寺の五百羅漢プロジェクトは7年目となり、修復事業の長期継続性を確保するために、修復記録等を格納し、学生を含む関係者が利用できるデータベースの構築に着手した。また、文化財保存修復の啓発と研究成果の社会還元を目的に、山形県立博物館との共催によるオンライン公開講座を4回シリーズで開催した。海外からの参加者など、従来の対面式の公開講座へは参加できない層の集客に成功し、参加者はほぼ毎回100名を超えている。

■高大連携事業の推進

本学のデザイン思考のノウハウを活用した探究型学習研究大会のオンライン形式による開催も2年目となった。今回は対面とオンラインのハイブリッド方式での開催となり、昨年度に続き参加可能な対象者が広がった。高校教諭を中心に257名（前年度比124%）の参加があり、そのうち176名は新規参加者であった。

また、山形東高、山形西高を中心にカリキュラム開発や教員研修、出張授業等による連携を継続展開した成果が拡散しつつあり、連携高校を中心に延べ40回の講師派遣等を行った。両校に加え、12月には山形北高が連携協定校となった。